

令和5年度第7回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和6年2月27日（火） 午前10時27分から12時まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広、岡野 創造、松本 重雄、
能見 伸八郎、山本 みどり、小畑 英明
監 事 長谷川 佐喜男、中島 俊則
事務局 長谷川経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 令和5年度の京都市立病院機構の補正予算及びこれに伴う当年度計画の変更について（議題）

資料1に基づき、事務局から報告。

(2) 月次収支（12月まで）報告

資料2に基づき、事務局から報告。

- 医療収益が減少した要因として、一般病床休床以外に要素は考えられるのか。
 - 昨年度に引き続き、1病棟休床し481床運用としており、コロナ5類移行後、病床稼働率向上に努めたが、病床稼働率が低かった。要因として、平均在院日数目標は10日であるが、9.1日と短かく、入院患者数が増えなかったことが挙げられる。今後の取組として、可能な限り紹介患者あるいは救急患者等の断り件数を減らすことで、入院に繋がる患者の受入れを促進していくとともに、在院日数の適正化を図る。
- DPC入院期間Ⅱの割合が短い要因として、患者が早期退院を希望されているのか、それとも主治医が入院診療計画書をDPC入院期間Ⅱの基準より短い期間で設定しているのか。また、二次救急を行っている病院として、今後、救急患者の受入れ促進に力を入れていく必要がある。
 - パスは適宜見直しているが、患者個別の事情によるところもある。今後、入院促進を図っていくために、平均在院日数及びDPC入院期間の適正化に努めていく。また、救急については、医師によって患者受入れに対する温度差があるのも実情である。
- 令和5年4月から12月までの収支は14億円の赤字であるが、通期で見ると、9億円の赤字ということは、1月及び2月の収支は5億円の黒字という理解で合っているか。
 - 14億円の赤字にはコロナ補助金が含まれていない。また、2月及び3月の収支は見込みであり、令和6年1月以降は病床稼働率（481床）が89%を見込んで収支を算出している。
- 冬は感染症の流行などにより患者数が増加する傾向があるのか。
 - 冬は、呼吸器における感染症、循環器及び脳疾患の患者数が増加する傾向がある。今後、季節関係なく患者受入れ促進を図らなければ、収支均衡は見込めない。
- 稼働率が低い診療科においては対策を立てているのか。
 - 診療科によっては医師数の見直しの検討を行っているが、当院は大学病院からの派遣医師がほ

とんどであることから中々難しい。しかし、今後、このような経営状況が続けば、1年後には債務超過となるため、具体的な改善策を講じていく必要がある。

- 稼働率向上対策として、診療科ごとに割り当てベット数の見直しを行ったが、今後、全体の病床数の見直しも検討していく必要がある。コロナ前は、病床稼働率（528床）が90%を達した時期も見られたが、それでも年間5億円の赤字であり、その時点から経営面で課題はあったが、コロナ禍になったことで、この課題を解決できずにいた。コロナ前から抱えていた課題を解決するために、今年度、新入院患者数の増加、平均在院日数の適正化に努めるとともに入院の質を高める取組を行っているが、年度途中の成果に結びつかなかった。
- 稼働率向上のため、努力されてきたことは評価するが、経営状況改善の見通しが立たないのであれば、債務超過となるため、京都市とも対策案について早急に協議すべきである。
- 保健福祉局とも協議をし、政策医療等に関しては十分に負担をしていただけるよう働きかけている。また、入院稼働が戻りにくい中、病院スタッフを減らした上で、481床運用とし、効率的な運営を図っている。
- 空床活用については、今期中期計画内で検討していく。また、当院は令和5年12月にダヴィンチSPを導入した。今後、ロボット手術件数を増やすとともに、紹介患者数を増やしていく。

(3) 令和6年度当初予算案骨子について

資料3に基づき、事務局から報告。

- 給与費の予算額が増加する要因は、診療報酬改定に伴う影響か。
- そのとおり。
- 昨年度、京都市が給料表の改定及び期末勤勉手当の引上げを行ったが、当機構においては今後の経営状況を見て給与費の引上げについて検討する。今回の診療報酬改定では、看護師を中心した医療職の給与費引上げが提示されている。
- 今回の診療報酬改定に見合った診療方針を来年度計画し始めているのか。
- 計画していく。また、2年前、当院はDPC特定病院群に指定されたが、今後2年間も特定病院群に指定される旨の通知があった。

(4) 訴訟案件について

資料4に基づき、事務局から報告。

(5) 令和6年度理事会スケジュール

資料5に基づき、事務局から報告。

- 第5回理事会は京北病院での開催となっているが、第4回から第6回までの半年間、市立病院の経営状況について、把握することができない。非常に厳しい経営状況の中、来年度理事会開催回数が7回で良いのか。
- 第5回理事会については、開催場所は京北病院であるが、報告内容としては、市立病院、京北病院どちらも審議予定である。
- 必要性が出てきた場合、臨時開催を行う。

3 その他

- ダヴィンチSPを導入しただけでは黒字計上は難しく、それに伴う新規患者の受入れをしていく必要がある。

- 当院は、以前からダヴィンチ手術枠を増やしたいとの意見が診療科から挙がっており、今回、導入したことにより手術室に携わる職員のモチベーションも向上した。今後、ダヴィンチ SP の広報を積極的に行い、紹介患者を増やしていく。
- ダヴィンチ SP 導入にかかる費用はどのくらいか。一括払いか。
- 7年リース契約で機器及び保守料含めて年間 8,000 万円の支払い契約である（注：1年3箇月据置）。

4 閉会